がなくてはならない．　(金井弘夫)

□清水敏一（編）：**小泉秀雄植物図集**　251 pp. 1995. 小泉秀雄植物図集刊行会．￥7,000（送料不要）．

小泉秀雄先生の遺品の中に，多数の植物図があることがわかり，このたび没後50年を記念して，故人の職場であった共立女子薬専の関係者等の協力により刊行された．編者は登山家で，大雪山に「小泉岳」と呼ばれるピークがあることから，山名の由来をたずねて小泉先生にゆき当たったとのことで，「大雪山わが山小泉秀雄（1982)，同続編（1984)」の著作がある．今回の出版は，清水氏の努力によるところが大きい．また刊行会代表の矢武三知氏は先生の教え子である．

小泉秀雄先生の詳細な図は夙に知られているが，本書の図はそれに輪をかけている．どれもがB5版に4枚（ときに3枚）の図を配置し，部分図までも切り貼りの跡が全くない描き下ろしである．シダや裸子植物もあるが，イネ科，スゲ属，タンポポ属が最も多い．先生は遠大な計画のもとに，図鑑の制作を意図しておられたのだろう．それにしても，仕上がり寸法の図を，融通のきかせようもない頁単位に作って行くというおそろしい計画である．金井は原図のコピーを見せられたとき，ゲラ刷りではないかと疑ったものだが，先生の講義を受けた水島によって，直筆の図であることが確かめられた．ただ，植物名など僅かなメモが付記されているだけで，図の説明はなく，種類も限られているので，散逸しないようにと記念出版にしたものである．130頁にわたる図のほか，植物名目録，著作論文一覧，略年譜があり，アルバムと関係者の回想記がついている．スプリッターとして知られる小泉秀雄先生の見解，詳細な観察眼と描画力を知る上で有用な資料である．この点からすると植物名目録は，検索を目的としたものが望ましかった．また原図の植物名のメモの読み誤りが散見されるが，これは近く正誤表をつけるとのことである．本年6月に刊行されたが，先生の命日に合わせて出版日付は1995年1月18日となっている．

小泉秀雄先生は京都大学名誉教授小泉源一氏の実弟だが，家庭の事情で兄は大学へ進み，弟は農林高校を中退せざるを得なかった．独学と検定によって教員免許を得，のち共立女子薬学専門学校教授となられたが，1945年胃癌のため亡くなられた．この間，1911–1920年を北海道各地で，1920–1933年を松本ですごし，寒地植物の詳細な観察による膨大な資料を蓄積された．ことにタンポポ属，オトギリソウ属に関心をもたれ，新種の記載をされた．標本の多くは国立科学博物館に入っている．また松本時代には横内斎氏はじめ，多くの在野の植物研究者を指導し影響を与えられた．連絡先は次のとおり．〒068 岩見沢市緑が丘5-166（Tel 0126-23-4570）清水敏一．代金は後払いでよいとのことである．なお，木村敏朗氏から清水氏への私信によると，タンポポ属の図は昭和10年頃の本誌に掲載されたものだとのことである。

(水島うらら・金井弘夫)

□清水建美・梅林正芳: **日本草本植物根系図説**　262 pp. 1995. 平凡社．￥15,000.

双子葉類・単子葉類の212種について，根の形態を詳しく図説したものである．従来見過ごされがちであった地下部の形態を，克明に観察し記録したものである．根気のいる大変な仕事である．根は水分や栄養の吸収，また一部のものでは翌年の生活のための貯蔵器官でもあり，植物の生活の一部を担う重要な器官である．ひとつの属や近縁の属での根の違いは，それぞれの種類の生活の反映であり，進化の道筋を示しているものでもある．こうした観点から根の形態をたどると，面白い結果がでてくるのではないかと考えられる．ここに載せられたのはごく一部の種類でしかないが，ここでの観察のしかたを基礎にして今後の発展が期待される．

本書は見事な図が大部分を占めているので，図鑑として見られがちであるが，最初の30頁に渡って根系の解説がある．地下茎も含めた根系の定義にしたがって，どのような形の根系があるか，根系を構成する各部分はどのように呼ばれるかなどの詳しい解説がある．根や地下茎についてこれだけの詳細な説明は，今までの教科書には見られない．また巻末に根系の分類の仕方が事細かに載せ

られている．この前後の部分は著者の清水氏が最も苦心したところであろう．これがあるために今後根系を研究するものにとっては欠かせないものとなっている． （山崎　敬）

□初島住彦・天野鉄夫：**増補訂正琉球植物目録** Hatusima, S. T. Amano : **Flora of the Ryukyus, south of Amami Island, Second edition, enlarged and revised by S. Hatusima** 393 pp. 沖縄生物学会 The Biological Society of Okinawa, Okinawa.

表題のとおりこれは1958年に初版，1957年に改訂版が出版された琉球植物目録の増補訂正版である．本書はいまだ分類学的な検討を必要とする分類群の多い琉球の植物相の解明に長年貢献された著者ならではの著作である．これまで同様に主として初島の見解にもとづいた，この地域に自生ならびに栽培される植物の学名一覧である．*Pandanus odoratissimus* f. *ferrenus*（Y. Kimura）Hatusimaなどいくつかの非公式な新見解とヒツジグサ属などで和名の提唱がおこなわれている．この新見解はぜひとも早急に公式に発表されることを著者にお願いしたい． （大場秀章）

□Czerepanov S. K.: **Vascular Plants of Russia and Adjacent States（the former USSR）** 516 pp. 1995. Cambridge University Press, Cambridge. £60.

本書は1981年に出版された「Plantae Vasculares URSS」の new edition にあたるもので，旧ソ連に分布する自生植物や帰化植物を含めた216科21770種あまりの維管束植物を収載している．内容は植物の学名とそのシノニムリスト，およびその植物が分布する地域のみを記載した簡単なものである．植物の分布に関する情報は，旧ソ連を(1)東ヨーロッパ，(2)コーカサス，(3)西シベリア，(4)東シベリア，(5)極東，(6)中央アジアの6つのパートに分け，該当する数字を記載している．本書の中で植物は科名から種名に至るまでアルファベット順に並べられていて，特定の植物のおおまかな分布やシノニムなどの情報を得るには使い勝手が良い． （近藤健児）

□Blunt W. and Stearn W. T. : **The art of botanical illustration.** New edition revised and enlarged by W. T. Stearn 368 pp. 1994. Antique Collectors's Club, Suffolk, UK. £ 29.95.

この本の初版は，ロンドンの Bloomsbury Books が出した The New Naturalist シリーズの1冊として，1950年に Blunt の著書として出版された．Blunt は Stearn によれば植物はまるで知らない美術の専門家で，植物や植物学の知識は Stearn が授けた．その1967年版は日本語に翻訳され八坂書房から出版されている．

今度の新版はこれまでの版にあった，抽象的表現が減り，問題を具体的に示すための用例が増えた．植物画家の名前だけでなく，その画家が関わった出版物と植物学者が明示されている．キューを中心に未刊行の書籍やスケッチが採録されたり，こうした証拠品へのコメントが増えた．これは，植物分類学と植物学史，書誌に通じている Stearn のなまなかではない情熱に負うものである．細かな文字で印刷された脚注を加え，本書を陵駕する植物画論・史は将来望めるだろうか．

これまでの版ではおざなりであった，中国と日本の植物画についての記述も充実した．1994年に刊行されたシーボルト・コレクション中の川原慶賀の作品も採録されている（惜しむらくは印刷の色が悪い）．植物の図譜の文献目録としては，Claus Nissen（1966）や Hunt の Biblilography などがあるが，本書にも Curtis の Botanical Magazine などについての書誌学上のコメントがあり，この面からも意義深い． （大場秀章）

□Stewart J. and Stearn W. T. : **The orchid paintings of Franz Bauer** 160 pp. 1993. The Herbert Press, London. £25.00.

これは，19世紀前半の偉大な植物画家，Francis（Franz）Bauer（1758-1840年）が描いたラン科植物の図画の原図刊行を主目的としている．原図は，ゲッチンゲンの Niedersächsische Staats- und- Universitätsbibliothek，ロンドンの自然史博物館及びキュー植物園に保管される．Stewart がラン科植物，Stearn が Bauer について書いている．ラン科植物と植物画の愛好者には特に興味深い本であろう． （大場秀章）